

国土交通大臣 赤羽一嘉様
熊本県知事 蒲島郁夫様

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 岐部明廣
緒方俊一郎
7・4 球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会 共同代表 鳥飼香代子
市花保
美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康
連絡先 人吉市南泉田町1 岐部明廣

球磨川の河川整備基本方針策定に関する抗議文

国土交通省の社会資本整備審議会河川分科会河川整備基本方針検討小委員会（第114回）が9月6日に開かれ、球磨川水系の治水の長期目標である河川整備基本方針の見直しの検討は、わずか2回の会合で終了しました。同省のホームページによる同委員会開催の記者発表が9月2日、web上での傍聴申し込み期限が9月3日12時という、傍聴など不可能なスケジュールでした。住民は一部の報道を通してしか小委員会での審議を知ることができない、住民不在の状況です。

私たちは8月29日に「球磨川水系河川整備基本方針見直しに関する意見書」を、同委員会の小池俊雄委員長ほか12名（熊本県知事を含む）と、国土交通大臣あてに簡易書留で郵送しました。意見書では、球磨川の河川整備基本方針見直しに、住民の意見を反映させる場を設けることや、住民の意見を説明する場を設けることを要請しましたが、どのように取り扱われたかも全く分からない状況です。

河川整備の基本方針を検討するのならば、まず昨年7月の豪雨災害の被災者をはじめ、その河川の流域で生活している人の意見を聞き、災害の原因を追究すべきです。その手続きをせずに、極論すれば実際の災害や球磨川さえ見たこともない人たちが、国交省の準備する結論をなぞるだけの議論をしても、それは帳面消しにすぎません。

報道によると、人吉の基本高水流量は毎秒8200 m³に引き上げるが、計画高水流量は毎秒4000 m³のままとのことです。国土交通省がまとめた流域治水プロジェクトでは、人吉地区で70万m³、流域で合計300万m³もの河道掘削を行うとしているのに、河道流下能力の目標である毎秒4000 m³が変わらないというのは、非常におかしなことです。

これまで国土交通省は、「計画高水位」を1cmでも超えれば破堤するとして、ダム費用対効果などを算出してきました。ところが同省が示した球磨川の新たな基本方針は、ダムなどの整備を進めても、昨年7月豪雨と同規模の雨が降れば多くの区間で安全に流せる「計画高水位」以下に収まらない想定です。ダムと連続堤防にたよる従来の基本方針の在り方は、昨年7月の豪雨災害では破綻しています。今後は、どんな規模の洪水が来ても対処できる治水の考え方に転換すべきであり、今回の見直しはその絶好の機会だったはずですが。

蒲島知事は「最大限の中身が示された」と発言していますが、本来知事の提唱する流域治水とは「流域のあらゆる関係者が協働し、防災減災が主流の社会を目指す」ものです。ところが、昨年10月からの球磨川流域治水協議会から今回の小委員会までのメンバーに、流域の住民は全く含まれていません。また、豪雨被災者や住民の意見も一切聞いていません。流域治水とは、流域住民のためになされるものであるはずですが。住民不在の流域治水は、まやかしかしと言いがありません。

住民不在の球磨川の河川整備基本方針の見直しの検討に強く抗議するとともに、住民参加のもと、河川整備基本方針を再度見直すことを強く要請します。

以上